

1. 調査報告概要表

作成日 2008年6月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4790100079
法人名	有限会社 ヘルスサポート
事業所名	グループホーム若狭の家
所在地	〒900-0031 沖縄県那覇市若狭3-4-10 3F (電話) 098-951-0551
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年5月26日(月)

【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年4月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理費15,000/月 水光熱費200/日 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人陽心会 大道中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは3階建ての建物の3階にあり、那覇市の繁華街にあるものの静かな落ち着いた立地環境にある。3階建ての2階に小規模多機能型居宅介護そして1階に地域交流室があり、特に地域交流室を無料で開放して地域との交流活動が積極的に行われている。近隣に公園やスーパーがあり、職員は安全に配慮しながら日常的にホームからの外出を支援している。また管理者は、「出来るかどうか分からないけれどもとりあえずやってみよう。」という、前向きな姿勢を日頃から職員に示し、利用者の日々の楽しみごとや役割を引き出していく努力が見られる。今後は当地区において、認知症高齢者などが安心して最期まで暮らせるような中心的な拠点として実践して行かれるよう強く期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員と話し合いながら自己評価を作成している。一つ一つの自己評価を確認することで、外部評価時点ですでに改善されているものもある(理念が食堂の場所に掲示されているなど)。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市町村の担当と家族の代表者を含めて、現在まで三回会議が開催されている。現状では事業所からの報告が中心となっており、具体的な取組みに向けての話し合いはなされていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	週に一回程度の面会や病院受診の機会を通して、家族との情報交換は密に行われている。また開設当初からサービス担当者会議に家族が参加し、家族からの意見を反映させる仕組みがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当ホームの近隣に公園とスーパーがあり、日常的に外に出かけられる環境にある。地域の自治会へは加入していないが、建物の一階にある地域交流室を無料で地域に開放して積極的に交流している(学童保育・小学校・地域のサークル活動・民生委員主催のバザーなど)。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「本人らしい生活の支援を行います。」という理念を掲げているが、地域の交流を意図した内容は見られない。現在事業所の理念について再検討している所である。	○	今後は、地域との交流を意識して地域密着型サービスとしての役割を反映した理念を追加してほしい。また食堂内の理念の掲示にとどまらず、事業所の玄関など家族や見学者の目に触れやすい場所への掲示やパンフレットによる広報を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在事業所の理念について再検討している所であり、職員間で日常的に理念を共有する取り組みが見られない。職員は、本人らしい生活を支援していくことの理念を日常のケアにおいて実践している(過去の生活歴から不穏時の高齢者の対応を推察するなど)。	○	早急に事業所の新しい理念を作り上げて、管理者と職員が理念を共有して日々のケアの実践に取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会へは加入していないが、建物の一階にある地域交流室を無料で地域に開放して積極的に交流している(学童保育・小学校・地域のサークル活動・民生委員主催のバザーなど)。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員と話し合いながら自己評価を作成している。一つ一つの自己評価を確認することで、外部評価時点ですでに改善されているものもある(理念が食堂の場所に掲示されているなど)。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村の担当と家族の代表者を含めて、現在まで三回会議が開催されている。現状では事業所からの報告が中心となっており、具体的な取組みに向けての話し合いはなされていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	建物の一階にある地域交流室を利用して市のいきいきサロンを行っている(毎月第三土曜日)。市内で地域交流室を設けている事業所が少なく、市の担当者などの見学が多く見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	週に一回程度家族の面会があり、その都度家族へ日常の利用者の状況を報告している。病院受診後付き添っている家族から利用者の情報を聞き取るなど、家族との情報交換は密に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設当初からサービス担当者会議に家族が参加し、家族からの意見を反映させる仕組みがある。それ以外の場面において家族から直接意見が聞かれることは少ない。管理者は、今後家族会の結成を強く希望している。	○	管理者が希望している「家族会」の結成や、匿名の「家族アンケート」の実施により、積極的に家族の意見を反映できる工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに職員の退職が1名見られたが、現在の所退職を予定している職員はなく、現状では退職や離職による利用者への直接的な影響は見られない。管理者は、出来る限り法人内の異動を避けることを望んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には積極的に参加している。一方外部研修においては、年間の研修計画が立てられておらず、その都度ファックスなどによる案内が来てから希望する職員を派遣している。	○	今後は、職員が希望する研修内容や管理者が必要と考える認知症ケアに関する研修内容を踏まえて、研修の年間計画を立案して実施してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以降法人以外の事業所との交流はなく、沖縄県グループホーム連絡協議会等に参加していない。職員も同法人以外の同業者との交流を行っていない。	○	今後は、同法人系列のグループホームと密に情報交換を行い、サービス向上へ向けた研修会の実施などに取り組まれることを期待したい。また沖縄県グループホーム連絡協議会等に参加し、管理者が抱える悩みを共有して孤立しないようなバックアップ体制を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入居している利用者のうち、およそ半数が自宅から、そしてもう半数が有料老人ホームなどの施設から当ホームへの利用となっている。利用する前に家族だけでなく、本人と一緒に見学に来てもらい、自宅で生活していた時と同じような生活が送れるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の話を聞かせてもらうことで今の自分の生活との違いを学んでいる(洗濯板を使つての洗濯など)。またヘチマのみそ煮の仕方やトーフチャンプルの料理方法など教えてもらい、利用者が不穏の時や落ち着きがなくなってきた時にはそれらの共通体験を話題にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、利用者の行動をさえぎらず、遠くから見守りをして利用者本人が何を望んでいるのかを把握している。また直接利用者が望むことを支援している(食事を一緒に作ったり、居室に閉じこもりがちな利用者のビデオ操作を手伝ったり、計算ドリルを提供したりなど)。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は一年ごとに交代で利用者を担当しており、サービス担当者会議では、日頃の利用者の様子を家族へ情報提供している。管理者は計画作成を兼務しており、利用者の意向及び家族や職員の意見を反映させて介護計画を作成している(アセスメントからモニタリングに到るまで整合性のある内容となっている)。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、利用者の生活状態の変化により介護計画を変更している(不穏状態が続くことで薬の内容が変わったりするなど)。見直しに当たっては、家族だけでなく協力医療機関のかかりつけ医との連携がとれている(医療に関する情報文書を適宜収集及び管理している)。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは、3階建ての建物で、1階は地域交流室、2階は小規模多機能型居宅介護となっている。さらに同法人系列の病院及び介護保健施設などが近くにあり、事業所独自で多機能を活かした取り組みの予定は見られない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居後も、利用者本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続している。家族が遠方にいたり、緊急時にはホーム側で付き添って受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の所、重度化や終末期の対応が求められる利用者は見られない。入居の際に家族に対して、医療的なケアが必要になる場合はホームでの看取りは難しいことを伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、関係者以外見られないように厳重に管理されている。現在トイレの扉が壊れており、カーテンを引いてプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の過去の暮らしから馴染んできた仕事や趣味などに配慮して、日常のホームの暮らしにおいて過ごしてもらっている(毎朝1階玄関周りの掃除を手伝ってもらったり、集団での活動が苦手な人に計算ドリルを行ってみたり、など)。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食とも職員が中心となり事業所内で食事を作っている。利用者と職員は別々の時間に食事を取っており、職員は利用者とは別に個人個人弁当を持参してきている。	○	現状では食卓のスペースが狭く、利用者と職員と一緒に食事することが困難である。家庭的な雰囲気を出していくことが当初からのグループホームの理念の一つであり、今後は食事時間を長く取るなどして、職員と利用者が同じ食事をとって楽しい食事場面を作り出してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否する利用者に対しては、時間や日にちを換えたり、「2階の小規模多機能型の事業所へ遊びに行くのでさっぱりしてきてください。」と声かけをし、長期間の入浴拒否を回避している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前に家族から過去の生活歴を聞いているが、入居後も利用者本人の持っている力を観察して、利用者の能力から出来そうと思われる役割や仕事などを提起している(屋上の野菜の水やりや植物の種まきなど)。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に公園とスーパーがあり、日常的に外に出かけられる環境にある。繁華街に位置しているため、車の往来が多く、職員は常に利用者から目を離さずに一緒に出かけている。途中で息切れする利用者に対しては、2階にいる職員へ応援を求めるなど、バックアップ体制が取られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは繁華街にあり、治安面から夜間は完全に鍵を閉めている。3階までの移動はエレベーターを利用しているが、エレベーター隣に非常階段があり、時々利用者がそこから下に降りようとすることがある。1階の玄関は電子ロックで施錠しており、利用者自身で開けることは出来ない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	119番へのオンコールと非常災害用サイレンが事業内に設置されている。しかし開設以降一度も避難訓練が実施されていない。	○	運営推進会議において、民生委員や家族などの協力を得ながら早急に避難訓練を実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量を確認しており、おおかたの利用者の体重コントロールがなされている。一部体重オーバーしている利用者に対しては、運動を勧めている。また便秘予防のために積極的に野菜ジュースや牛乳を取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の玄関周りに飾りがなく殺風景な印象を受ける。一方ホーム内は明るく、食卓や居室の大きな窓から光が差し込んでいる。利用者同志がくつろげる共有空間が食卓しかなく、休憩用の椅子などは置かれていない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に私物がたくさん持ち込まれている。自宅で使用していた椅子や衣装ケースなど、その人の過去の暮らしぶりが感じられる。		